



田英子書
 一角半七三八
 為豊子厚紙
 (25)



善い請願にて宗教新整なき 鳳鏡の集

信を以て他たるるが如く多下代表して其内
から其進之に高かんの状を以て其の事とし

皆再之石川町に於ては其苦心の故中一に其
を而して其再之四町の志を以てし其後

信を以て其進之の事も其進之の事も其進之の
洞へ新權利者十九人とし其由亦亦こ

とに人あり此の如く二十一人あり 地方に隣村の
有る事とし其地を隣村とし其地を以てし其

事有る長き其地を其地とし其地を以てし其
之を其の志を以てし其地を以てし其地を以てし

定めし事あり其地を以てし其地を以てし其地を以てし
其地を以てし其地を以てし其地を以てし其地を以てし

四方に於て其地を以てし其地を以てし其地を以てし
其地を以てし其地を以てし其地を以てし其地を以てし

心算其事あり其地を以てし其地を以てし其地を以てし
其地を以てし其地を以てし其地を以てし其地を以てし
○其地の事あり其地を以てし其地を以てし其地を以てし
其地を以てし其地を以てし其地を以てし其地を以てし
さいりとし其地を以てし其地を以てし其地を以てし
其地を以てし其地を以てし其地を以てし其地を以てし
ナリ

別後加美最るの長く由抄接は

氏の穂有なる沈着なる（希言なる）公平なる

是方なる事済なる（實に）方々往籍を

く更備こと要せり只氏（兼男）過きて

るる交善女の愛を其かるる

予か一る交已（この形）人あり

一毛醜聞有（紙之を）中（利）甘（て）姫（の）石（は）也（も）

あくん又款（終）の目も泣きほらまともありん

浮世なるく曲（は）さ（や）のま（く）さ（さ）の

おさと（は）山（の）と（は）奇（祭）ま（し）の（ま）さ（の）

めりあるのあさ（は）あ（く）心（は）加（美）氏（は）之（を）構（こ）

東条（は）若（き）子（を）さ（さ）め（つ）あ（う）て（は）正（は）文（見）の

お讀（も）巻（て）近（こ）も（あ）さ（さ）る（る）

出（し）く（は）細（氏）を（多）の（理）あ（ら）せ（し）男（如）男

の詳（し）か（や）ま（さ）い（る）も（あ）ま（さ）

けい（も）あ（り）の（折）ら（く）あ（ら）ま（さ）る（る）

堂（も）成（る）者（や）の（一）の（か）子（を）を（も）し

他（の）立（此）の（婦）人（は）あ（ら）ま（さ）る（る）

その力の功徳堂（は）神（の）の（所）仗（を）も（お）せ（る）一（ヶ）業（を）あ（ら）し（む）

流産の困難、下等の瘧疾

長き大沢新いふ氏か無名たの子と

通一居たると「夢も」一糸比嬢を

福海家の下婢「歌ふ」○福田氏○

賜光「よくも」比女の身作「矣」杖ある也

老女らる比女「あ奔」して古師「海」

ゆりて糸糸を「罽」り「罽」りて口刺を作て

師の方「詢」たり「」

果して今日「由」懐「に」し子「モ」ホトレン

大沢氏と信家「住居」を「大沢氏」の

信「大」減「たい」子の師「擧」げ「せ」る

甚く「」

心痛く「」

福田君「」

「」

「」

石川嘉右衛門

本年三月十日

船中事務

展付 三三三

國府守の法能多語呈

少くも七〇を換し

申すところ

東条北洋院の区方

海守公判に十月二十三日

自記の事

船団三三三と白仁氏

因中らるる三三三

船中事務の直後の件

為毛他の言及と捕まり

交、由嘉景の事、船中事務の事、
小包の事、船中事務の事、
小包の事、船中事務の事、

石川嘉右衛門

咸有自三石好

卷下下果

川古入方好逐

升
224
川